

2010年佐久長聖高校カナダ英語研修レポート（翻訳）

1. 研修の概括 (General Program Overview)

生徒たちは3月21日の日曜日、午後4時にローレル・ポイント・インに到着しました。TOA社とCPCI社のスタッフによる歓迎、ホテル・オリエンテーションの後、軽食を摂ってから就寝しました。

3月22日の月曜日からサルベーション・アーミー・コミュニティ教会で研修が始まりました。歓迎・研修オリエンテーションがあり、生徒たちはカナダ人の先生及びアシスタントと対面しました。その後、CPCIスタッフが研修会場を見せて回った後、生徒たちを各クラスに案内しました。まだ生徒たちがホーム・ステイ・ファミリーに会う前なので、昼食はCPCIが用意したものを食べました。胸がドキドキするホスト・ファミリーとの対面は、同日の後ほどなされることになっていました。

生徒たちは毎日朝8時から9時の間に登校しました。専任のスタッフ・ミーティングが毎朝8時半に行われました。授業は午前9時から始まりました。午後4時半から5時の間に生徒の迎えが来ました。総じて言えば、午前中はクラスで勉強し、午後には用意されたアクティビティに参加、というのが日課でありました。それらのアクティビティはユリ・ジェンクスとCPCIのスタッフによって用意されたものです。

アクティビティの内容 (These activities included:)

- * ダウン・タウン・ラリー (テーマを持つての市街地巡り)。
- * シュメイナス町訪問
- * 州会議事堂と Fishermen's Wharf (漁船の集まる埠頭) 巡り。
- * スポーツ・アクティビティ。
- * ボランティア体験。
- * 体育館でのアクティビティ。

2. 設備／サービス (Facilities / Services)

ローレル・ポイント・イン。

サルベーション・アーミー・コミュニティ教会

St. Michael's University 校 (学校バスと運転手の供給)。

3. 体育館でのアクティビティの様子 (Activities in the Gym)

4. 研修のハイライト (Program Highlights)

ホーム・ステイ・プログラム。
ダウン・タウン・ラリー。
シュメイナス町訪問と壁画見学。
スポーツ・アクティビティ。
ボランティア体験。
修了式。
州会議事堂と Fishermen's Wharf (漁船の集まる埠頭) 巡り。

ゴールドストリーム公園でのピクニックの様子 (Picnic at Goldstream Park)

シュメイナス町と世界的に有名な壁画 (Chemainus and the World Famous Murals)

5. ボランティア体験 (Volunteer Day)

3月26日の金曜日、佐久長聖高校の生徒たちは小学校を訪問しました。その小学校で生徒たちは福笑い、折り紙、子供たちの名前を漢字で書く、といったことを披露しました。皆その訪問と文化交流を心から楽しみました。

6. ホーム・ステイ体験 (Homestay Program)

この研修において、佐久長聖高校の生徒たちはカナダ人のごく普通の生活を体験します。生徒たちはホーム・ステイを通して、カナダ文化に言わば「溶け込む」のです。ユリ・ジェンクスとそのスタッフは、出来る限り生徒の希望に合うホスト・ファミリーを捜すべく、多大な時間を使って努力します。その結果、生徒たちは最も自分に合ったファミリー宅で住むことになります。その経験によって生徒たちは、英語の理解力や会話力を高めながら、リラックスして自信をもつことができるようになります。

7. アクティビティの1例—お菓子 (ライス・クリスピー・スクウェア) を作る光景。 (Activity – making Rice Krispie Squares)

8. 生徒とスタッフの様子 (Students and Staff)

代表スピーチの準備 (Preparing for Valedictorian Speech)

9. 修了式 (Diploma Ceremony)

修了式は3月29日の月曜日に、サルベーション・アーミー・コミュニティ教会で行われ、全ての生徒と英語の先生・アシスタントの努力が賞賛されました。各クラスの代表スピーチがなされ、各生徒には修了書と団体写真が手渡されました。聴衆は、生徒有志の素晴ら

しい音楽演奏とダンスを心ゆくまで楽しみました。その後、レセプションが開かれました。

10. 英語の先生・アシスタントの雇用 (Selection of CPCI Staff)

この研修のための最高の先生・アシスタントを雇用すべく、細心の注意と努力が以下のように払われました。

Craig's List というインターネット広告に、先生とアシスタント募集の告知が出されました。

締切日は 2010 年 1 月 14 日に設定されました。約 95 人の応募がありました。各応募者に関する詳細はスプレッド・シートにまとめられました。長聖中学の研修には 5 人の先生と 5 人のアシスタントが必要なので、候補者を約 20 人に絞ってインタビューしました。インタビューはビクトリアの CPCI の事務所で、S.J. Kim、ユリ・ジェンクス、そして私 (Jim Henderson) によってなされました。

雇用された人々はオリエンテーションを受けるため、サルベーション・アーミー・コミュニティ教会に集まり、そこで先生とアシスタントの組み合わせや、与えられる教室が発表されました。加えて、生徒の研修スケジュールの詳細を含む、総体的な情報も与えられました。それをもって先生たちは研修の事前準備ができるので、全員が良いオリエンテーションであると評価しました。

11. 先生・アシスタント紹介 (The Staff)

クラス A

Heidi Stieg (先生)

Heidi は TESOL(英語を学ぶ外国人を教える資格)を保持し、日本で英語を教えた経験があります。彼女のクラスはいつも元気で沸き立っていました。次の機会があれば、非常に強く再雇用を推薦します。

Aidan Docherty (アシスタント)

Aidan は 2009 年にビクトリア大学を卒業し、歴史学学士号を保持しています。サマー・キャンプで 2 年間 ESL (英語を母国語としない人に英語を教えるクラス) を教えた経験があります。次の機会があれば、非常に強く再雇用を推薦します。

クラス B

Shanna Baslee (先生)

Shanna はブリティッシュ・コロンビア大学の学士号を保持しています。また彼女は

TESL(英語教授法)の資格があり、1年間 ESL を教えた経験があります。次の機会があれば、非常に強く再雇用を推薦します。

Meghan Barnhart (アシスタント)

Meghan は国際開発論の学士号と TESL の資格を保持しています。彼女はペルーで ESL を教えたことがあります。次の機会があれば、非常に強く再雇用を推薦します。

12. 総合的な論評 (General Comments)

佐久長聖高校の生徒及び先生たちと、今回もまた当研修に携われたことは、私にとって大きな光栄でありました。私が校長を勤めたここ数年の間を通して、この研修の内容は着実に成長を続け、胸を張れるような現在の段階に達しました。しかし、私たちはさらなる成長を目指した努力を続ける所存です。

佐久長聖高校の先生方と我社のスタッフによる、生徒たちに対する気配り、細心の注意とサポートは比類無きものでした。岩野先生と篠原先生は研修全般を通して素晴らしい引率振りでありました。

最後に、私たちは各研修が終わるごとに、全てのスタッフにその研修に関する意見を出してもらい、それを参考に次年度の研修プランを作るということにご留意ください。ですから、佐久長聖高校の先生方と生徒たちからフィード・バックは大歓迎であり、とても有難いものです。毎年のように経験する私たちの緊密な協力関係は素晴らしいものです。今後も長きに渡ってその協力関係が続くことを心から祈っております。

尊敬の念を込めて。

Jim Henderson

CPCI 校長

CPCI 校長によるレポートのカラー版のオリジナルをご覧になりたい方は、www.toa-cpci.com/pro_group.html をクリックし、ページの下の方にある、**2010 年佐久長聖高等学校カナダ研修レポート** をクリックしてください。

2010 年度佐久長聖高校カナダ研修旅行 CPCI 校長先生のレポートに対する補足

3 月 21 日 (日) 軽い雨の中、全員元気な様子で予定時間に無事到着した。
一つのスーツ・ケースに小さなダメージがあり、三つのスーツ・ケース

に巻くストラップが紛失したとのクレームがあった。該当する四人の生徒とJALの事務所に出向き迅速な対応を要請した。結果としては、ダメージの修理を含め、全て満足ゆく処理をしてもらった。

パラリンピックのための交通規制で、本来はスカイ・トレインを利用する予定であったが、運転士の巧みな交渉で、バスの空港構内への乗り入れ・乗車が可能となった。そのためフェリー乗り場に早く到着したので、予定より1時間早い13時出発のフェリーに乗船した。

気温が比較的に高く、天候も好転したので、デッキに出て航路の美しい景色を楽しむ生徒が多くいた。

景色の美しい所をドライブしてからホテルにチェック・インし、簡単なホテルに関するオリエンテーションをした後に部屋で休息をとった。

午後6時からのディナーとそれに続く諸注意があり、9時に就寝と全て予定通りに推移した。

全員で34人の小さなサイズということもあって、全てが順調な一日であった。体調不良を訴える生徒が出なかったことも何よりであった。

3月22日（月） 快晴のもと、みんな元気で、食欲旺盛に朝食を済ませてから学校へ移動した。

学校ではまず英語の先生たちの紹介があり、集合写真を撮った後、さっそく授業が開始された。

疲労と緊張のためか、総じて固い表情でのスタートとなった。

午後には体育館で、特に英語の先生と生徒たちが打ち解けあい、親睦を深めるように、様々なゲームが行われた。

夕方にホーム・ステイに関するオリエンテーションがあり、続いてホスト・ファミリーとの対面があった。いよいよホーム・ステイの開始となったわけだが、幸いにもその夜、誰からも緊急連絡は無く、さいさき良い出発を喜んだ。

3月23日（火） 若干の雲はありながらも上々の天気で、全員が元気に登校した。

午前中の授業では、前日に較べると固さのほぐれた生徒が多かった。

翌日の天気予報が雨とのことを考慮し、午後にダウン・タウン・ラリーを一日前倒して実施した。

好天下、とても楽しかったと好評ではあったが、ちょうど時差調整の最もきつい時だったこともあり、学校に戻ってから疲労を訴える生徒も何人かいた。

3月24日（水） 予報に反して好天が続いたので、日程には無い遠足に出かけた。シュメイナスという、学校から1時間強にある小さな町を目指し、11時半に出発した。

途中にあるゴールド・ストリーム州立公園で昼食を摂った。そこには10月から11月にかけて大量の鮭が、産卵のために殺到することで有名な川があり、昼食はその畔で摂った。鬱蒼とした森の中、樹齢500年を超える杉の太さに度肝を抜かれる生徒たちもいた。

シュメイナスは長いこと製材業で栄えた町だが、林業の衰退と共に活気を失っていった。これではいけないと1980年に、時の町長と町の主要メンバーたちは町おこしに立ち上がった。その結果、大きな壁画を売りにして、観光客を誘致する計画が立ち上げられた。町のいたる所にシュメイナスの谷に広がる森林と木材、林業の歴史を描写した壁画をたくさん描くことにしたのである。それと共に町の中心部に、まるでオモチャの建物のような店、カフェ、レストランを配置した。

それは大きな反響を呼び、当初の目的は立派に果たされたと言われる。英語の先生たちとその町並みを散策した生徒たちの評価は高く、「良かったー、楽しかったー」という声が多く聞かれた。

来年からは、それをあらかじめ日程に入れる方向で考えたい。

3月25日（木） 天気はぐずつき気味であったが、午前中のカナディアン・クッキー作りのクラスには影響はなかった。それはライス・クリスピー・スクウェアといわれるものを、英語の先生の指導のもとで作るクラスである。

生徒たちは楽しみながらそれを作って食べ、添付のレシピを自分のカードに書き写して日本に持ち帰る。

そのクラスも含めてこの日強く感じられたことは、生徒たちの英語のリスニング力が、例年に比しても、かなり良くなっていることであった。一見したところでは疲れた表情が多い割にはそのことが目立つ。喜ばしいことである。

午後は翌日のボランティア・デイの出し物の練習をした。少し準備不足気味の感もあったが、それなりに形のつくところまでは行き着いた。

また、代表スピーチをする生徒の発表があった。1人は自分から名乗りをあげ、あとの3人は長聖の先生方が、英語の先生の推薦を参考に決めた。

生徒たちには代表スピーチがどういうものかが詳しく説明され、自分たちが用意すべきこと、それをCPCIスタッフの助けを借りて英語にすることなども説明された。

3月26日（金） 予報に反して、快晴とは言えないまでも上々の天気の中、午前中はボランティアに出かけた。

小学校4～5年生の2クラスを対象に、二組に分かれてボランティア活動をした。筆ペン、折り紙、福笑いを担当する三つのステーションを、子供たちが15分間隔で訪ね、長聖の生徒たちの指導で遊ぶ、というのがその活動の中心である。

あらかじめ日本の新聞紙を使って折り、持参した折り紙のカブトをかぶって、はじける笑顔を見せる子供たちを相手に、長聖の生徒たちは大いに頑張っていた。

小学校の方では、ボランティアに来てもらいたいというクラスが、他にも幾つもあったのだが、当方の人数の関係で全ての希望を満たせないで、小学校の校長先生が頭を悩ませたとのことであった。

午後は、代表スピーチに選ばれた生徒が準備したものを基に、スピーチの内容を英語にする作業をした。（スピーチをしたいと自ら申し出た生徒は、ほとんどの内容を自力で英語にしていた。しかもそれがかなり正確なものであったので、CPC I スタッフは本当に驚き、感心したものであった。）

生徒たちは出来上がったものを読む練習をしながら、読む際の注意点を指導され、さらにスピーチの原稿を「声に出して、5回以上読む」という宿題を出された。それに加えて、週末に関する感想を日本語でよいからまとめておくことも宿題とされた。

「いよいよ週末だー」ということで、みんないそいそと帰宅した。

3月27日（土） 週末は天気予報が幸いにも当たらず、まずまずの天気で、生徒たちは

3月28日（日） 大いに楽しんだとのことであった。誰一人として病気になるず、本当に「先生孝行」の生徒たちであった。

3月29日（月） 今回はかなり悪天候の予報が続いたが、大半の場合、それに反した好天に恵まれることが多かった。この日もその例にもれず、微風で陽射しもあったので、Fisherman's Wharf（漁船の集まる埠頭）と州会議事堂見学に出かけた。

Fisherman's Wharf ではアザラシの餌付けに喚声が挙がった。また生徒たちは海の上に建てられた、オモチャのように見えるが、実際に人が住んでいるフローティング・ハウスを物珍しげに見物した。

その後、絶景の海辺の小道を通して州会議事堂へと歩いた。

ちょうど議会が開催中でいつも以上に静肅が求められたが、生徒たちは「小声」ではしゃぎながら、記念写真を撮りまくっていた。またその後、議会の外では、B.C.州の第一野党党首に対するテレビ取材も目撃された。

そこで記念の集合写真を撮って帰途についたのだが、まさにその時から雨が降り始めた。お陰で濡れることもなく、本当にラッキーであった。

学校に戻ってから、代表スピーチをする生徒たちは、週末のエピソードを英語にする作業の後、何度もそれを読み、最後にはマイクを使っての練習をして自信をつけるべく努力した。

この時に生徒たちの気合は最高潮に達する。指導しながら、それを目の当たりに出来るC P C Iスタッフはまことに幸運である。そういう充実感を与えてくれる生徒たちに心から感謝しなければならないと思う。

他の生徒たちはサンキュー・カードなどを作って、最後のクラスを楽しんだ。

夕方には全員が修了式会場に集まって、式次第のリハーサルをした。

修了式はいつものように感動的なものであった。岩野先生のスピーチ、生徒たちの代表スピーチの双方とも、熱心な練習の成果に相応しく素晴らしかった。

ホスト代表の Peter Jasmin 氏のユーモア溢れる、日本語混じりのスピーチも会場を明るくするものであった。

生徒有志によるブラス・バンド演奏やダンスも雰囲気の大いに盛り上げた。

それにも関わらず一抹の寂しさがあったのは、やはり、グループの規模が小さく、従って参列者の数も少なかったことにあるように思われた。

修了式後のレセプションも同じ理由でちょっと寂しい雰囲気があったが、生徒たちが非常に元気だったお陰で、数の割には熱気に満ちたものとなった。

3月30日（火） 早朝の肌寒い天気の中、ホスト・ファミリーとの涙の別れを惜しんだ後、出発時間通りに学校を離れ、予定のバス・フェリーでバンクーバー

空港に向かった。

空港では中学生と同様に、23キロを超える荷物を持つ生徒の対応に追われた。来年の説明会での重要な案件として検討しておきたい。

今年の生徒たちは、中学・高校生ともに、文字通り1人も医者にかかることはありませんでした。その幸運に心底から感謝いたします。

高校生の日程についてですが、今回のような、日曜日に日本を出発し、翌週の火曜日にカナダを離れるパターンは再考を要するのではないかと思われました。

到着の翌日から休み無しに、英語の学習と異文化体験を一週間続けるのは、生徒たちにとって体力的にも精神的にもきつ過ぎる、というのがその第一の理由です。どのグループの場合でも、生徒たちの元気さ、リラックス振りは週末にホスト・ファミリーと楽しい時間を過ごした後に顕著に現れます。ですから、例えば、日本出発・カナダ到着を火曜日にし、日本到着を翌週の金曜日にすれば、疲れのピークに週末を挟むことができ、研修全体が生徒にとって色々な面で負担の軽い、より楽しめるものになると思われま

それについて2011年度を例にとって具体的に示しますと、以下のような旅程になります。

日本出発	3月22日	カナダ到着	3月22日
カナダ出発	3月31日	日本到着	4月01日

上記のパターンは、これまでの日本航空のスケジュールでは不可能でした。しかし、日本航空におけるリストラに伴う多くの変更の一環として、成田・バンクーバー便は毎日1便となりましたので、再変更が無い限り、それが可能になりました。

そうなれば、代表スピーチの準備と練習に大幅な時間的余裕が生じます。今のパターンでは、準備を週末以前のエピソードと週末体験後のそれとに分け、特に後者に関しては、英語にする作業と練習を非常に短い時間に仕上げるという無理をしなければなりません。週末に關することがスピーチの中心となることを考えると、パターンの変更はとても大きな意味を持つわけでありま

また、火曜日出発 — 木曜日帰国となると、航空運賃が往復共に平日料金となり、お得になることも付け加えておくべきでしょう。

ご検討のほどを宜しくお願い申し上げます。

(尚、上記の変更は後日、学校当局の了解を既にいただきました)